

第3回安芸津病院耐震化 対応検討専門部会について

1 安芸津病院耐震化対応検討専門部会の概要

(1) 要旨

第6次広島県病院事業経営計画において、「本計画期間中に具体化に向けた道筋を明らかに(する)」としている、安芸津病院の耐震化対応検討のため、令和元年9月に広島県病院経営外部評価委員会の専門部会として設置した。

(2) 設置根拠

広島県病院経営外部評価委員会運営要綱第3条

委員会は、前条の事項に係る審議のために、必要に応じて専門部会を設けることができる。

(3) 設置目的及び検討内容

安芸津病院の経営状況や将来の患者数・医療需要等の予測を踏まえ、診療科・病床数など、病院の適正規模を見据えた耐震化への対応(現状補強, 一部建替, 全面建替等を幅広く検討)について、地元及び医療現場の関係者等と具体的な検討を行う。

2 安芸津病院耐震化対応検討専門部会 委員名簿

(令和3年1月現在)

氏名 (敬称略・50音順)	職名	備考
(かじなが さとみ) 梶永 里美	東広島市 健康福祉部長	
(くまがい そういちろう) 熊谷 聡一郎	広島県病院事業局 事務部長	
(ごとう としひこ) 後藤 俊彦	県立安芸津病院 院長	
(なかにし としお) 中西 敏夫	一般社団法人広島県医師会 常任理事	広島県病院経営外部評価委員会 委員
(よねだ よしひろ) 米田 吉宏	竹原地区医師会 会長	米田小児科医院 院長

3 これまでの開催状況

第1回専門部会

- (1) 日時・場所
令和元年12月18日(水)19:00～20:15
於: 県立安芸津病院 4階 講義室
- (2) 説明・検討内容
- ・ 安芸津病院の現状について
 - ・ 耐震性等について

第2回専門部会

- (1) 日時・場所
令和2年1月27日(月)19:00～20:15
於: 東広島市安芸津生涯学習センター 研修室301
- (2) 説明・検討内容
- ・ 第1回耐震化対応検討専門部会の概要
 - ・ 各経営指標の状況
 - ・ 市町別入院・外来実患者数
 - ・ 周辺医療機関の状況
 - ・ 将来需要予測分析に関する調査
 - ・ 耐震化対応の事例

4 第3回専門部会の概要

(1) 日時

令和2年12月7日(月)19:00～20:00

於:オンライン開催

(2) 説明・検討内容

- ・ 安芸津病院の概況及び耐震化検討状況について
- ・ 安芸津病院に係る耐震化対応の方向性について

(3) 今後の対応方針(案)

耐震化対応については、安芸津病院の経営状況や将来の患者数・医療需要等の予測を踏まえ、診療科・病床数など、病院の適正規模を見据えた対応が必要であり、また、対応に当たっては、専門部会での議論を継続するとともに、利用者等の意見も参考に、病院の役割や機能等の検討を進めて行くことが重要となるので、幅広く機会を設けるなど、地域の関係者と連携して、具体化に向けた構想を取りまとめる。

5 第3回専門部会における委員からの主な意見

(1) 安芸津病院の機能について

- ・ 安芸津病院は救急輪番という大事な役目を担っているため、急性期機能は維持していただきたい。
- ・ 病院のベッド数を段階的に減らすことには賛成であるが、急激に減少させることはいかなるものか。

(2) 診療科について

- ・ 現在、外来の診療科のうち「内科」、「外科」、「整形外科」は常勤医で診療している。その他の診療科は派遣の非常勤医師に頼っているが、周辺住民のニーズにある程度応えることができる体制となっており、現在の医療提供体制は維持していただきたい。
- ・ 安芸津病院は、安芸津地区での地域包括ケアシステムの中心的な病院であるということに加え、地域の医院にない診療科をフォローしている。病床数が減少したとしても、診療体制は変わらないということを住民の方に納得していただく必要がある。
- ・ 小児救急がないことが竹原市の課題であるが、特に小児科、婦人科は市内でも医院が少ないことから、今後も継続していただきたい。

5 第3回専門部会における委員からの主な意見(続き)

(3) 強化すべき機能・求める機能

- ・ 病床数の減少について、住民の抵抗感は大きいと考えられるので、病床数が減少しても、機能が低下するわけではないというイメージを持ってもらうことが大事であり、検査機器更新等を通じて、診療機能を強化していただきたい。
- ・ 地域包括ケアにおいては、入院や診療科の面で安芸津病院が果たす役割は大きく、介護予防においても、地域に出向いて指導するなどの取組をされており、これは今後も継続していただきたい。
- ・ 整形外科で活用できたり、患者を他院に紹介しなくて済む利点を考えると、MRIを導入することはいいことである。
- ・ 派遣医師の専門性をもっとPRすれば、患者や開業医に魅力のある病院になる。
- ・ 小児科医や産婦人科医の不足は全国的な課題であるが、特に小児救急機能を付加することができるのであれば、ぜひお願いしたい。
- ・ CTでは対応できない救急患者もいることから、MRIなしで救急機能を担うことは困難である。
- ・ 整形外科の場合は、他院でMRIを撮ってもらわなければならないので、患者に大きな手間をかけさせている。高額機器ではあるが、必要不可欠な機器であり、地域の救急医療を支えるためにも、ぜひとも設置していただきたい。